

池辺三山 新聞人。徳富蘇峰・石河幹明とともに"三名主筆"と称され、作家の起用など特筆すべき足跡を残した。

いけべさんざん

禁門の変・1864 = 熊本京町で、代々藩主細川家に仕える家柄に生まれる。

明治維新・1868 = 4歳 :

維新後、玉名郡代・少参事などを経て、横島村で私塾を開いていた父に学ぶが、

明治6年政変 1873 = 9歳 :

西南戦争・1877 = 13歳 : 父が熊本有志隊を組織して官軍を苦しめて斬刑となり、父の霊を慰めるべく立身出世しようと、発奮して勉学に精励、肥後の儒者・国友古照軒の塾に入門して漢籍を学んだ後、

明治14年政変 1881 = 17歳 : 上京、中村敬宇の同人社を経て、名判事として聞こえた鎌田景弼に見出され、慶応義塾に入学したが、

新体詩抄・1882 = 18歳 :

岩倉具視没・1883 = 19歳 : 佐賀県令となった鎌田に従い、中退して佐賀の学校課に雇用された。

秩父事件・1884 = 20歳 : 辞職して再び上京、熊本出身学生の奨学機関有斐学舎の舎監となる。

条約改正反対運動に奔走し、「山梨日日新聞」に論説を執筆。

初の対等条約 1888 = 24歳 : 鎌田が病没後、東海散士の依頼で大阪に出、(経世評論)を創刊して主筆となったが、

帝国憲法発布 1889 = 25歳 :

帝国議会始 1890 = 26歳 : 親友に勧められて東京に戻り、\*{日本新聞}の客員となって言論界にデビューした。

足尾鉞毒始 1891 = 27歳 :

大本教・1892 = 28歳 : 旧藩主の子・細川護成の補導役として渡欧、パリに留学、{日本}に寄稿した「巴里通信」で文名を高めて、

日清戦争始 1894 = 30歳 :

日清戦争終 1895 = 31歳 : 帰国。{日本}に執筆後、

白馬会・1896 = 32歳 : \*{大阪朝日新聞}の主筆に迎えられて、その声価を高めたことから、

八幡製鉄始 1897 = 33歳 : {東京朝日新聞}の主筆も兼任、

子規句歌革新 1898 = 34歳 : {東京朝日新聞}の専任となり、

報道主義の立場から海外報道の充実や"つや種"の社会面からの排除など紙面の近代化を進めたほか、

ビアノ国産化 1900 = 36歳 :

日露関係が緊張してくると対露強硬論・主戦論の論陣を展開、

日露戦争始 1904 = 40歳 : 二葉亭四迷の庇護はじめ、新人作家を積極的に起用、

日露戦争終 1905 = 41歳 : ポーツマス条約締結に際しては、桂内閣の妥協的態度を強く非難するなど、目覚しい活動、

韓国反日暴動 1907 = 43歳 : \*夏目漱石と朝日新聞社の専属契約など、近代文学史上にも特筆すべき足跡を残して、不振の同紙を建て直したばかりか、覇権を握るに至ったが、その後、姿勢が大きく変化し、

伊藤博文暗殺 1909 = 45歳 : \*第二次桂内閣の"大博覧会延期問題"では、世論とは全く逆に内閣を支持するなどしたため、社主村山竜平の不興を買って、

大逆事件判決 1911 = 47歳 : 退社を余儀なくされ、

明治天皇没 1912 = 48歳 : 母が死去した直後に、心臓発作で没した。